

NIE 土曜サロン

第4回

読売新聞東京本社（東京・大手町）
9階会議室にて

NIE実践教諭らが熱心に意見交換した第4回NIE土曜サロン（本社9階会議室で）

新聞を授業で活用するNIE（教育に新聞を）について理解を深める第4回土曜サロンが4月26日、読売新聞東京本社（東京・大手町）で開かれ、参加教諭が自ら実践例を紹介したり、意見交換したり、NIE特集面（4月17日付け朝刊）を書いた記者が取材の舞台裏を話した。

4月にさいたま市立岸中へ異動した所孝子教諭（国語科）は、前任校の同市立尾間木中で、「書く力」の育成を目指して全職員で取り組んだ実践をもとに報告。「生徒たちは自分の考えを伝える技能に自信がなく、論理的な文章には苦手意識がある。新聞を使った授業が役に立つ」と説明した。

さいたま市立沼影小の萩原信一教諭は、4月の授業参観日に5年生の国語で、児童が興味を持った新聞記事を選んで内容を要約、自分の意見や感想を書き加えて発表し、互いにきちんと聞く活動を紹介した。

元NIE実践教諭の鹿野川喜代美・同社NIE企画デザイナーは、かつて勤めていた東京都福生市立第1中の生徒が卒業時の作文に書いた「NIE 3年間で身についた力」を紹介、「生きる力」「文章を読み解く力」「人を思いやる力」「新聞を比較して真実を探し出す力」「平和を考える力」「人の意見を聞き、自分の考えを見直す力」など、若い感性を磨き、さまざまな力をつけたNIEの効果を披露した。